

5 但馬牛去勢肥育牛の飼料給与法

但馬牛の給与飼料には定まったものではなく、各農家で飼養環境、飼料価格などの要因により様々な飼料が与えられている。しかし、給与飼料を設計する場合いくつかの重要なポイントがある。その中でも粗飼料給与レベルとビタミンA給与法は増体、肉質に大きく影響する。そこで、粗飼料とビタミンAの給与法を中心に但馬牛去勢肥育牛の飼料給与法を紹介する。

内容

肥育で第一に考えなければならないことは肥育期間中の飼料（エネルギー）摂取量を如何に多くするかである。肥育前期から濃厚飼料を多給すると早期に食欲不振となり、結果的に総摂取量が少なくなる。また、粗飼料を多給すると牛は健康的になるが濃厚

飼料の摂取量が増えず、十分に肥育された肉牛とならない。粗飼料は肥育牛にとっても重要であるが、時期と給与量を誤ってはならない。給与飼料の一例を表1、2に示したが、14か月齢までは良質の乾草（チモシー等）を3.0kg/日与え、濃厚飼料は多くても5kg/日までに制限する。その後は乾草をイナワラに換え徐々に量を減らす。20か月齢で2.0kg/日、25か月齢で1.5kg/日が目安と考えられる。濃厚飼料は17～18か月齢までは制限するが、その後は自由採食とし1日7kg以上与える。

ビタミンAは増体と肉質に大きく影響し、その給与方法を誤ると、増体および脂肪交雑の低下あるいは筋肉水腫（ズル肉）等が起り、収入が激減する。現時点で最善と考えられる方法は次のとおりである。まず、導入時には200～300万IUを経口投与し、そ

の後14か月齢までは飼料に添加し2万IU/日を与える。飼料に添加しないのであれば導入2か月後に再度200～300万IUを与える。15か月齢から25か月齢

表1 但馬牛去勢肥育牛給与飼料例

月齢	9-11	12-14	15-17	18-20	21-25	26-31
濃厚飼料 給与量 (kg/日)	前期配合		中期配合		後期配合	仕上配合
	2.5 (2~3)	4.5 (4~5)	6.0 (5~7)	7.5 (7~8)	7.5 (7~8)	7.5 (7~8)
粗飼料 給与量 (kg/日)	乾草		イナワラ			
	3.0	3.0	3.0-2.0	2.0	2.0-1.5	1.5-1.0

表2 濃厚飼料配合割合 (%)

	前期	中期	後期	仕上げ
大麦	0	25	35	45
加熱圧ペントウモロコシ	40	30	30	25
一般ふすま	50	35	30	5
大豆粕	10	10	5	5
TDN	71.1	72.4	73.0	73.4
粗蛋白質	15.8	15.3	13.3	13.2
ビタミンA添加 (IU/kg)	4000	0	600	1000

表3 枝肉成績

項目	平均値	標準偏差
枝肉重量(kg)	420.9 ±	41.7
脂肪交雑(BMS No.)	8.0 ±	1.3
肉色(BCS No.)	3.9 ±	0.4
ロース芯面積(cm ²)	53.6 ±	6.1
皮下脂肪厚(cm)	2.9 ±	1.0
歩留基準値	73.3 ±	0.9

までは基本的にビタミンAの給与を制限するが、濃厚飼料の摂取量が7 kg/日を下回るようであれば3,000～5,000IUを飼料に添加して与え、飼料摂取が回復すれば添加を中止する。25か月齢を過ぎればビタミンAは脂肪交雑に影響しないので、5,000～8,000IU/日を飼料添加で与え、増体を良くする。

上記の方法で肥育した去勢牛8頭の枝肉成績を表3に示したが、枝肉重量が平均420.9kgで、脂肪交

雑（BMS No.）が8.0と良好であった。

今後の課題

但馬牛の中にも増体型、肉質型、早熟、晩熟等のタイプが存在すると思われる。上記の飼料給与法は但馬牛去勢肥育牛における1つの基準となるが、牛のタイプによって若干の修正が必要である。

岡 章生（中央農技・家畜部）